

平成25年度学校評価・学年の中間報告について

(学校評価委員会事務局・平成25年9月11日)

担当	今年度の重点目標 (今年度の指導の重点達成のため、学年で掲げた目標)	今年度の具体的な取組 (今年度の重点目標達成のため、具体的に取組むべきもの)	取組数	取組の評価できる点・今後改善すべき点
1学年	二高生としての基本の確立。	基本的生活習慣の確立 社会に適用する挨拶や言葉の敬重 規律ある環境作り(慣れやいじめのない学年)	3	遅刻・欠席はほとんど無く、服装に関しても概ね良好である。ただ学年の教員に対してだけでなく、他学年の教員や来客に対する挨拶の向上など今後改善すべき点を残している。いじめや暴力が無い部分に関しては大いに評価できる。
		学習習慣の確立 能動的に学習に向かう姿勢 目標に向けた計画的学習	3	小テストの結果などからまだ取り組みへの甘さが窺われる。本来能動的な学習への取り組みを促すための企画であるのだから、今後学年を挙げて取り組んでいきたい。一方資格取得に挑戦するものが増えてきている。引き続き奨励し結果の出るようバックアップをしていきたい。
		進路意識の確立 自己の興味・選性・可能性を探る	3	ボランティアや校外学習の取り組みは一部の生徒にとどまっている。与えれば十分に答えられるのは分かっているの、どのように提示するかをきめて今後取り組んでいきたい。上記の活動や総合学習での体験を通して2学期以降は積極的に取り組み姿勢を育てたい。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 相手と場面を考えた言葉・形・行動を学ばない。 自分の進路に向き合い、自分の進路目標を高める。 	国公立大学50名の早期実現を図るため、学年内の受験態勢を整備する。 SCクラス：一般入試による進学を奨励する。 Cクラス：AO・推薦入試による進学を奨励する。 美術コース：複数の国公立大学合格を目指す。 進路目標の達成力をつけるため、「聞ける・聞ける・話せる」体験への参加、「記録できる資格」の取得を目指す。 ・海外研修、校外学習、ボランティア活動のいずれかへの参加の働きかけ ・資格取得の奨励 ・情報ビジネスコース：就職試験合格のための学力と資格取得を目指す。	3	授業後講習や学習合宿等の制度が確立されており、計画的に取り組んでいる。ただし、学年全体を見ると進路目標が定まっておらず取り組みに消極的な生徒もいる。今後は更に個人面談や添削指導等とおして、個々の進路目標や学習状況を把握し、学力と態度の向上に力を注いでいく必要がある。
		海外研修、校外学習、ボランティア活動に対して、意欲的に参加申し込みをする生徒が増えている。学外学習発表会では、自分の体験をパワーポイントでまとめ、発表することで、「聞ける・書ける・話せる」ことへの成果を上げている。しかし、取り組んでいない生徒もいるので、今後の働きかけに工夫が必要である。資格取得に関しては、合格者を増やすために対策講習を実施し成果を上げたものの、「記録できる資格」において受験生の指導が必要と考える。	3	
3学年	志望進路達成を図る。	親上級生としての自覚を持たせ、自ら学ぶ態度を育てる。	3	補習や学年集会での指導はよくなされており、学ぶ態度は育ってきた。生徒には意識の差があり、「自ら」という点では自覚のさせ方が不足している。もう一步成長するためにも、特に意識の低い生徒への指導が最後まで必要である。携帯電話の校内での使い方について、もっと厳しく制限をかけた方がよい。(コミュニケーションツールではなく、単にゲームなどで遊んでいる。また、教室では掃除の邪魔になっている。下級生は手に持ったまま歩いて帰る生徒が多い。)
		適切な進路の選択ができるよう進路志望を明確にさせる。	4	進路指導部との連携や生徒との面談などもしっかり行われており、生徒は概ね希望進路に向けて努力している。早めに指導しても志望を決定できずかなり悩んだ生徒も多く、まだ決まっていない生徒もいる。
		学校、家庭生活のリズムを正しく保つ生活習慣を確立させる。	3	朝読書や勉強時間等はしっかり計画され、実施されている。一方で、未だ遅刻・欠席の多い生徒がいる。また、携帯電話の使用については、他校では校内での使用は禁止である。昨年度の保健部のアンケートによると、9割以上の生徒が0時を過ぎたの経験となっている。受験勉強というよりは携帯電話の使用の必要性が高いと思われる。使用についての制限や何らかの対策は必要である。
		国公立大学50名 (AO・推薦合格者30名、一般入試合格者20名) ・生徒の学力向上 - 学習意欲の確保、添削指導の強化など ・SCの学習行事の強化	4	できることは可能な限り行っている。小論文指導を充実させることが大切である。
八戸工業大学第1志望者20名 ・八戸工大との高大一貫教育の推進 ・八戸工大の研究業績および高い教育システムの積極的活用	3	現在16~17名志望しており、20名に達していない現状である。最終的には20名前後になると思われるが、八戸工大との以上の連携が必要である。		

平成25年度学校評価・校務分掌の中間報告について

(学校評価委員会事務局・平成25年9月4日)

担当	今年度の分掌目標 (今年度の指導の重点達成のため、分掌で掲げた目標)	今年度の具体的な取組 (今年度の分掌目標達成のため、具体的に取組むべきもの)	取組数	取組の科目できる点・今後改善すべき点
教務部	学習指導の充実及び新学習指導要領の全面実施に伴う教育条件の整備を図る。	45分間完全授業の実施とわかる授業に取り組むことの徹底を図る。英語においては、新学習指導要領に基づき、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるための教員研修を深める。	4	教師は始業前に教室に入りチャイムとともに授業を始め、45分授業をしっかりと行っている。「わかる授業」については、今後も適切な生徒指導に努め十分な教材研究を行って行かなくてはならない。新学習指導要領に基づく1学年の英語の授業は英語により行われている。研究会には積極的に参加しており、教科会議において、伝達講習を行っている。
		者査後の追指導を必ず実施する。教科主任会議では、長欠者や病欠不振者の状況と指導内容についての情報を共有する。その上で、生徒・保護者に適切に対応する。	4	各教科とも者査後の追指導を行って、低得点者への指導を実施している。教科主任会議での情報共有も確実にしている。
		新教育課程の完全実施に伴い、内規の改訂と新しい4年次の生徒指導要領の作成を完了する。	2	1学年の新しい4年次の生徒指導要領の作成はほぼ完了している。内規については、改訂作業がまだ完了しておらず、作業を進めて早急の完了を目指したい。
管理部	安心・安全な学校 —危険箇所の点検・解消、危機管理への対応 購入・修繕予算の適切な運用 —コスト意識の強化とコスト削減の努力	施設・設備の維持・点検を日常的に実施する。	3	毎日校内外の見回りを実施し、不具合の有無を確認している。重油タンクの漏洩防止工事・水道等の貯水タンクの清掃・消防設備の定期点検・消火用圧水ポンプの修理など、設備の維持に努めているが、経年劣化は蓄勢に進行している。
		住み良い居住環境に向けた改修と施設の機能化を進める。	3	通学路のヒマラヤスギ30数本の伐採を実施。枝折れなどによる事故防止に努めている。冬場にはボイラー配管の熱気漏れが予想されるので速やかな対応を心掛けたい。なお、機能化は法人本別と話し合いを持ち、計画を進めていきたい。
		有事対応の危機管理について 非常用放送設備の保守・点検を行う。 危機管理マニュアルと防火管理規定の整合性を図る。	3	消防訓練の種、非常用放送設備の正常作動を確認。さらに保守・点検は定期的に実施していきたい。危機管理マニュアルと防火管理規定を読み合わせ、整合性を図った。
		購入品目を見直し、ムダな出費を抑える。	3	修繕部員の見直しや在庫数を点検を行い購入計画を立てたり、購入にあたっては数社から提出された見積もりを比較するなど、出費の抑制を進めている。
		消耗品の購入を一括化し、廉価な購入に努める。	3	年度当初は各部署に呼びかけて消耗品の購入を取りまとめ、一括購入を実施した。今後も継続したい。
		現状の視聴覚機器を正確に把握し、点検・整備を進める。	3	今のところ視聴覚機器には大きな支障がなく運用できている。年数の経っている機器もあるので丁寧に使用してゆきたい。
		図書委員の活動の一環として図書広報を発行し、読書を啓発する。	4	図書広報は定期的に発行できている。読書活動は昨年度より一段と充実している。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> いじめのない安心・安全な学校 挨拶や服装・容姿など基本的な生活習慣の確立 生徒会活動の活性化 部活動の振興 	いじめアンケートを各学期末に実施する。	4	予定どおり第1回を実施。12月に第2回を予定している。
		保健室と連携した、学校としての組織的な「気づき力」の向上。	2	保健教師と情報交換はしているが、定期的ではない。これからは学年とも連携し、積極的に情報交換をするようにしたい。
		登校時の服装指導、授業における生徒指導。	3	朝の登校指導はよく取り組まれている。授業における生徒指導においても、朝の打合せや学年会議の場で関連情報を提供するようにしている。
		委員会活動の活性化。	3	時間の確保がむずかしく、なかなか委員会の開催ができなかった。2学期は回数が時間を確保し、生徒役員改選後、早い時期に協議委員会を開催したい。
		二高祭や芸術鑑賞会などの行事の見直しと内容の改善。	4	芸術鑑賞会は予定を変更し12月に開催予定。(地元で活躍しているアマチュア音楽団体を予定している)
		部活動支援コーチ制度の実施。	4	現在、野球部がコーチ1名を登録している。
		強化指定部(特待生採用部)の競技成績の向上。	4	競技成績については、特待制度をスタートして1年目でもあり目立った伸びはない。しかし、特待生に採用されている生徒は、部活動・勉強ともに頑張っている。

担当	今年度の分掌目標 (今年度の指掌の重点達成のため、分掌で掲げた目標)	今年度の具体的な取組 (今年度の分掌目標達成のため、具体的に取組むべきもの)	取組数	取組の評価できる点・今後改善すべき点
進路指導部	キャリア教育の推進及び進路成績の向上を目的に、関連する項目の取組性を高める。	進路成績の向上 一難関大学合格を含む、個々の希望進路実現のための学力の向上を図る。	3	1 学期予定された夏の学習合宿、講習会等は順調に実施された。この結果をふまえ、特に3学年に対しては弱点強化のために積極的に目的の充実を図った特別講習を設定し、実行中である。1・2年は講習に加えて、一部の学習内容の定着を目指した取組を押し進めている。
		キャリア教育の実践 一社会を構成する一員としての自覚の育成をめざす。	4	ボランティア活動は、昨年度に比べ、参加イベント数、参加人数とも大きく増加し、こどもたちの充実した活動として定着しつつある。また、2学年の総合学習「大学学部別特長探訪」には県内の国公立大をはじめ八工大、市内専修学校の参加が促された。
		情報の共有 一活動の具体化と質的向上を目指して 学年との連携 拡大進路会議の実施 各分掌と委員会との連携	3	各学年、各コースでの進路関連の業務や検討事項を把握しつつ、時期を逃さない働きにつなげているが、拡大進路会議の開催が減少傾向にあるので、もう少し取り組むべき業務の優先順と内容の取組確保を早めに判断したい。
		資格取得について 一設定資格の検定と指導体制の充実	3	情報処理関係や簿記関係の資格取得に関しては授業との関連づきができている。また、英検の取組もほぼシステムとして出来上がっている。漢検については上記の情報処理や英検と同様に扱ったほうが良いかどうかを検討すべきである。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・学友保健：生徒の精神的・身体的健康保持および介護 ・学友安全：怪我・事故発生時のスムーズな対応 ・学友管理：健康的な環境の整備 	的確な健康診断の実施と健康状態の把握をする。	4	計画的に健康診断を実施した。受診の必要な生徒には、夏休み前に結果を通知し、受診を促した。
		感染症等に対して速やかな対応をとる。	4	今年は、まだインフルエンザなど感染症は少ないが、発生した場合の対応をとる体制が整えられている。
		保健室利用の多い生徒の状況報告とカウンセリングの実施。	4	毎日の保健日誌（保健室利用状況）を各学年主任にも報告。定期考査後の教科会議、及び職員会議ごとに保健室を利用している生徒の状況を報告。また、状況に応じて時田先生（相談員）がカウンセリングを実施。
		アドバンスルームの適切な運営。	4	1人2学期からアドバンス生として認定される。
		災害発生時の緊急連絡体制の確立、分掌・学年との連携	3	緊急連絡体制は年度初めの職員会議資料にて提示。
衛生指導、清掃指導、換気の取組	3	手洗い、足の消毒などは習慣化されている。清掃は、十分注意を払っているが、さらに廊下工夫をするべきところが見つかるかもしれない。		
渉外部	PTA行事（総会・各委員会活動）への参加率の向上 PTA総会参加率20% 各学年への協力要請	ホームページの活用＝案内文書と活動内容の掲載	3	役員・委員ではなくPTA会員（全保護者）向けの文書の掲載を考えていたが、それに相当する文書は今のところ1通。活動内容の掲載に関しては広報誌との兼ね合いもあるので、少ないのが現状である。
		案内文書の充実な配布（実施4週間前には配布）	4	概ね4週間前には案内文書を配布できている。突如外部より送られてくる文書に関しては、早急に文書を作成し、配布している。
		情報伝達システムを利用した案内文書の再送	2	PTA会員とPTA委員の連絡が密にわかって、ホームページでの再送は1度のみである。出欠の返事が来ない保護者に対しては電話で確認を取っているのが現状。こちらの方が確実である。
		学年との連携 役員・委員への配布文書を学年主任にも配布 →PTA行事の内容の共有	3	PTA行事の協議という観点から学年主任には文書を1学期は配布していたが、2学期も送ったこともあった。反省すべき点である。
企画部	本校の存在を中学校を中心とした地域社会に周知し、その魅力をアピールして、恒常的に定員250名を確保する。	学内での企画立案 募集活動全体のコンセプトの明確化と共有 募集担当者の育成力向上 活動項目の検証・記録、分掌各部との連携 ホームページと学友掲示板の充実	3	4項目いずれにおいても具体的な取り組みが施されているが、深く浸透しているとはまだ言えない。いわゆる「内通広報」を推進することで一層の企画の充実が図られていくと考える。
		募集活動の企画立案 中学校訪問、中学校説明会、受験講習会	3	第3回の中学校訪問と12月の受験講習会を話し、ここまでの募集活動には進展がみられた。体験入学の複数回実施等、検討項目について下半期にしっかり対策を講じたい。
		募集に関する基礎資料整理と分析	3	広報のガイドブックを手にし、1学期4回の生徒募集実践講座とその後の広報講習を実施。広報活動のイロハを学び始めた段階で、本校に実際にあわせて深化することがこれからの義務である。
		募集ツール（DVD、パンフレット等）の最適化	3	DVDを新規に作成したが、概ね好評のようである。パンフレットやチラシ等のツールの意識づけを再確認して、次年度に対応したい。

平成25年度学校評価・学年の最終報告について

(学校評価委員会事務局・平成26年1月31日)

担当	今年度の重点目標 (今年度の指導の重点達成のため、学年で掲げた目標)	今年度の具体的な取組 (今年度の重点目標達成のため、具体的に取り組むべきもの)	取組数	取組の評価できる点・今後改善すべき点
1学年	二高生としての基本の確立。	基本的な生活習慣の確立 社会に通用する挨拶や容姿の徹底 規律ある環境作り（暴力やいじめのない学年）	4	遅刻の率はほとんどなく、服装指導も授業前、登校時などの声をかけなども積極的に行っている。挨拶も場をしっかりとされているが、今後も指導の継続を行っていく必要性を感じている。1件発生したいじめとおぼしき状況にも各所と協力して迅速に対処できた。
		学習習慣の確立 能動的に学習に向かう姿勢 目標に向けた計画的学習	3	現在も小テストへのより良い取り組みの啓蒙を継続して促している。一学期の頃と比べると生徒間で取り組みに温度差が見られるようになったため、3学期からは指導方法を変えて取り組んでいる。資格決定へは以前にも増して積極的に取り組むようになってきている。
		進路意識の確立 自己の興味・適性・可能性を探る	3	ボランティアやサイエンスキャンプなどの校外学習へは、取り組む生徒も少しずつ増えてきてはいるが、今後より積極的に取り組めるための啓蒙活動が必要である。総合学習の時間では以前にもまして積極的に取り組む生徒が増えてきている。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> 相手と場面を考えた言葉・形・行動を忘れぬ。 自分の進路に向き合い、自分の進路目標を高める。 	国公立大学50名の早期実現を図るため、学年内の受験態勢を整備する。 SCクラス：一般入試による進学を意識する。 Cクラス：AO・推薦入試による進学を意識する。 美術コース：複数の国公立大学合格を目指す。 進路目標の実現力をつけるため、「聞ける・書ける・話せる」体験への参加、「記載できる資格」の取得を目指す。 ・海外研修、校外学習、ボランティア活動のいずれかへの参加の働きかけ ・資格取得の奨励 ・情報ビジネスコース：就職試験合格のための学力と資格取得を目指す。	3	就職説明会や学習合宿などの制度が確立されており、受験に向けて計画的な取り組みがすすまれている。しかし、個々の生徒を見ると、国公立大学を志望しながら学習への取り組みが甘い生徒もいる。対策としては、集会などをとおして「意識の変化」を促すとともに、個々の進路について学年の教員が共通理解を持ち、授業態度はもとより様々な取り組みにおいて、個別指導を行うことを3学期から強くすすめる。
		生徒自身が進路を見据えて、校外学習・ボランティア活動に対して意欲的に参加するようになってきた。総合的な学習の時間を中心とする校外学習では、参加後のレポートのまとめ方をみても、「聞いて・書ける」という力が上がってきている。また、資格取得に関しても、自前対策講習などの取り組みにより、合格率が上がった。「記載できる資格」については、各担当教員から3倍以上の受講指導がなされ改善された。 3年生の前半を利用し、「聞ける・書ける・話せる」体験や「記載できる資格」の取得に更に取り組ませたい。	4	
3学年	志望進路達成を図る。	最上級生としての自覚を持たせ、自ら学ぶ態度を育てる。	3	講習や各種行事も計画的に生徒に提示できている。行事に参加する生徒の人数も毎回多く、積極的に取り組んでいるといえる。服装や遅刻で指導を受ける生徒の数は減少し、上級生としての自覚も高まるようになってきた。
		適切な進路の選択ができるよう進路志望を明確にさせる。	4	ほとんどの生徒は、相談や進路指導によりしっかりと目標を設定し、その志望達成に向けた取り組みができている。しかし、数人は浪人やアルバイトでもよいと考え、進路決定に対して消極的な面が見受けられるため、継続した指導は不可欠である。
		学校、家庭生活のリズムを正しく保つ生活習慣を確立させる。	3	勉強量が定着し、落ち着いた学校生活につながってきている。また、生徒会を中心に挨拶運動も行われるようになり、生徒の学校生活に対する意識も向上している。しかし、設定された生徒においては遅刻や欠席が目立っているため、必要な生徒には継続した直談判やカウンセリングも必要である。また携帯電話の使用については、今でもマナーが守られていない所があるため、もっと規制を設けるべきである。
		国公立大学50名 (AO・推薦合格者30名、一般入試合格者20名) ・生徒の学力向上 - 学習習慣の確保、添削指導の徹底など ・SCの学習行事の進化	3	推薦・AO入試で目標の30名は到達できた。あとは一般入試で是非とも20名の合格を実現するのみである。センター試験前の直前講習や受験後ゼミなどは、組める分はすべてコマとして設定している。あとはセンター試験後の個別指導をしっかりと行い、最後まで気持ちを切らさないように指導する必要がある。
		江戸工業大学第1志望者20名 ・江戸工大との高大一貫教育の推進 ・江戸工大の研究業績および高い教育システムの積極的活用	3	推薦・AO入試で18名の合格者を出せたということは目標達成されたといえる。これからは一般入試に向けてどのくらい国公立大学や私立大学受験者に併願をさせることができるのかにかかっている。1人でも多くの生徒が受験するよう働きかけていく必要がある。

平成25年度学校評価・校務分掌の最終報告について

(学校評価委員会事務局・平成26年1月31日)

担当	今年度の分掌目標 (今年度の指導の重点達成のため、分掌で掲げた目標)	今年度の具体的な項目 (今年度の分掌目標達成のため、具体的に取り組むべきもの)	取組数	取組の評価できる点・今後改善すべき点
教務部	学習指導の充実及び新学習指導要領の全面実施に伴う教育条件の整備を図る。	45分間完全授業の実施とわかる授業に取り組みることの徹底を図る。英語においては、新学習指導要領に基づき、生徒の理解の程度に合わせた英語を用いるための教員研修を深める。	3	始業ベルとともに授業を始め、45分間をしっかりと行うことに教員がこだわりを持つようになっている。その時間の中で、それぞれのクラスの生徒を適切に把握し、「わかる授業」を行い、学力の定着を図る取組の進捗を確認したい。英語による授業は、職員研修の成果が見られ、1年生の模擬面接や英語検定試験の成績に現れてきた。次年度も継続したい。
		者番後の進指導を必ず実施する。教科主任会議では、長欠者や成績不振者の状況と指導内容についての情報を共有する。その上で、生徒・保護者に適切に対応する。	4	各学年ともに者番後の進指導を確実に実行し、成績不振の生徒への指導を徹底している。教科主任会議においては、それに関する情報の共有がなされ、生徒や保護者との面談でもその指導経過が活用され、保護者の理解が得られている。
		新教育課程の完全実施に伴い、内規の改訂と新しい様式の生徒指導記録の作成を完了する。	4	新しい教育課程が今年度入学生より完全実施となっている。それに伴った内規改訂の作業は終了し、教員に提示されている。また、今年度入学生の新しい様式の生徒指導記録の作成も完了し、年度末の提出に備えている。
管理部	安心・安全な学校 —危険箇所点検・解消、危機管理への対応 購入・修繕予算の適切な運用 —コスト意識の強化とコスト削減の努力	施設・設備の維持・点検を日常的に実施する。	3	重油タンクの漏洩防止工事、消火用揚水ポンプの修理・二体のボイラーの煙突を修理、貯水タンクの清掃及び防防・電気設備の定期点検を実施。その他北棟生徒玄関など修繕の必要な箇所は、来年度法人本部に予算を要求する。
		住み良い居住環境に向けた点検と施設の耐震化を進める。	3	通学路のヒマラヤスギの伐採、教室内の床の清掃とワックスがけを実施。ボイラーの点検と不具合を修理。配管の漏れ漏れは早急に対処したい。耐震化は法人本部と話し合いの上、進行していきたい。
		有事対応の危機管理について 非常用放送設備の保守・点検を行う。 危機管理マニュアルと防火管理規程の整合性を図る。	4	消防訓練の訓練、非常用放送設備の正常作動を確認。業者による定期点検を行い、本校職員も毎日見回りの点検確認。危機管理マニュアルと防火管理規程は組み合わせた上で、整合性を図った。
		購入品目を見直し、ムダな出費を抑える。	4	購入品目を常に見直し、必要の度合いの低いものは購入を見送ることとしている。
		消耗品の購入を一括化し、廉価な購入に努める。	4	フラットファイルや便紙など消耗品の一括購入で、単価を抑え、出費減につながった。
		現状の特殊機器を正確に把握し、点検・整備を進める。	4	視覚検査機は不具合無く運用できた。今後も丁寧に扱い、使用可能な期間をできるだけ伸ばしていきたい。
		図書委員の活動の一環として図書広報を発行し、読書を啓発する。	4	1年間図書広報を継続して発行できた。読書会の活動は活性化し、生徒に普及に努めている。
生徒指導部	・いじめのない安心・安全な学校 ・挨拶や服装・容姿など基本的な生活習慣の確立 ・生徒会活動の活性化 ・部活動の振興	いじめアンケートを各学期末に実施する。	4	12月に予定どおり2回目を実施。3回目は3月に実施予定。(様式の変更を検討)
		保健室と連携した、学校としての組織的な「気づき力」の向上。	3	保健室、学年主任とも不定期ではあるが情報交換はしている。しかし、2学年については職員室が離れていこともあり情報交換の回数が少なかった。
		登校時の服装指導、授業における生徒指導。	3	朝の登校指導は各学年とも引き続き積極的に取り組んでもらっている。今後は、授業中の生徒指導がより充実するよう生徒会に働きかけていきたい。
		委員会活動の活性化。	3	委員会開催の日整理確保が難しい状況である。来年度は、学期に1回程度集まりが持てるよう行事予定に組み入れてもらえないか検討中。
		二高祭や芸術鑑賞会などの行事の見直しと内容の改善。	4	来年から3年に1回の実施で検討中。
		部活動支援コー子制度の実施。	4	他の部活動も利用しやすいようにコー子制度の内容を検討したい。
		強化指定部(特待生採用部)の競技成績の向上。	4	強化指定部の将来的な見通しの検討が必要。

担当	今年度の分掌目標 (今年度の指導の重点達成のため、分掌で掲げた目標)	今年度の具体的取組 (今年度の分掌目標達成のため、具体的に取組むべきもの)	取組回数	取組の評価できる点・今後改善すべき点
進路指導部	キャリア教育の推進及び進路意識の向上を目的に、関連する項目の関連性を高める。	進路実現の向上 一 短期大学合格を含む、個々の希望進路実現のための学力の向上を図る。	4	評価点) AO-推薦入試において質・量ともに過去最高の合格者を出した。これまでの指導システムの刷新により担任の負担は以前よりも軽減した。また、壁越・月曜ゼミ、新たな講義形態など新しい取り組みを実施している。 改善点) 基本的指導内容を確立し、学年の状況に合わせてオプションをつけることができよう柔軟性をもった AO-推薦入試指導を目指したい。口頭指導対策の指導法確立。
		キャリア教育の実践 一 社会を構成する一員としての自覚の育成をめざす。	4	評価点) ボランティア活動は、昨年度に比べて参加イベント数・参加者数ともに大幅に増加し、生徒達の充実した活動として定着。 改善点) インターンシップは、様々な企業へのアプローチにより多業種・多地域化を進めたい。
		情報の共有 一 活動の具体化と質的向上を目指して 学年との連携・拡大進路会議の実施 各分掌と委員会との連携	3	評価点) 減少傾向にあった拡大進路会議は定期的で開催するようになった。 改善点) 進路センターに来れば、「情報共有ができる」環境作り(見やすい・わかりやすい)を目指す。FSVを使用した情報共有は、今年度の状況では満足しなかった。
		資格検定について 一 認定資格の検定と指導体制の充実	3	評価点) 簿記・情報処理検定は授業との関連づけもあり、軌道に乗りつつある。英検への取り組みもシステムとして完成している。 改善点) GTECと検定については、教科・コース・学年と相談して学校としての取り組み方を確認することも必要である。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健：生徒の精神的・身体的健康保持および増進 ・ 学校安全：怪我・事故発生時のスムーズな対応 ・ 学校管理：健康的な環境の整備 	的確な健康診断の実施と健康状態の把握をする。	3	計画通りに健康診断を実施して、受診の必要な生徒に通知した。が、受診の結果の回収が100%でない。
		感染症等に対して速やかな対応をとる。	4	インフルエンザまたはノロウイルスなどの感染症が発生した場合の対策をとる体制がとられている。
		保健室利用の多い生徒の状況報告とカウンセリングの実施。	4	毎日の保健日誌を校長・教頭・各学年主任に報告。定期考査後の教科会議及び職員会議ごとに保健室利用状況や報告、カウンセリングの実施の仕方については検討したい。
		アドバンスルームの適切な運営。	3	2名(1年生、3年生)のアドバンスルーム生については安定してきている。11月からアドバンス利用している2年生1名と3年生1名については、登校しない日があったり、登校しても午後からになったりと安定していない。
		災害発生時の緊急連絡体制の確立、分掌・学年との連携	3	緊急連絡体制は年度初めの職員会議資料にて提示。来年度は、救急救命法の講習を企画したい。
		衛生指導、清掃指導、換気の徹底	3	廊の換気は習慣化されている。清掃は、十分注意を払っているが、さらに創意工夫すべきところが見つかるかもしれない。来年度は手洗いを十分にするために液体石鹸を少しずつ移行したい。
渉外部	PTA行事(総合・各委員会活動)への参加率の向上 PTA総会参加率20% 各学年への協力要請	ホームページの活用 = 案内文書と活動内容の掲載	4	全 PTA 会員を対象にした案内文書はホームページを活用させてもらっている。また、活動内容を掲載することによって少しは活動に関心を持ってくれば良いのだが、参加者の固定化が見られるのが悩みである。
		案内文書の確実な配布(実施4週間前には配布)	3	概ね実施できていると思う。校外団体から来る突発的な案内文書に関しては翌日には配布するようにしている。
		情報通信システムを利用した案内文書の再送	4	参加者が伸び悩み、定員割れを起こしそうなイベントに関しては何らかの通信システムを利用した。多少の効果はあり、電話での参加申込みがあった。
		学年との連携 役員・委員への配布文書を学年主任にも配布 →PTA行事の内容の共有	3	前期では学年主任にはその都度配布するようにしていたが、後期には通のいってしまった感が否めない。2学年に所属するPTA 会長向けの文書が多いので、その都度2学年主任に配布するのを見がけられる部分もあるので、別の方法で(たとえば渉外部のFSVで見られるようにするか)何らかの方法が必要である。
企画部	本校の存在を中学校を中心とした地域社会に周知し、その魅力をアピールして、恒常的に定員250名を確保する。	学内での企画立案 募集活動全体のコンセプトの明確化と共有 募集担当者の意識力向上 活動項目の検証・立案、分掌各部との連携 ホームページと学内掲示板の充実	3	具体的取り組み項目のすべてに着手できたが、それぞれの評価標準やそれに対する本校の現状とそのギャップのうめり、または広報活動全体を把握したに過ぎず、次年度以降に具体策を策定して反響点を反映させたい。定員確保は募集活動の目標であるが、本校の良さを広く知らしめて入学者のミスマッチをなくすることが目的であるので、その線に沿った企画を立案していきたい。
		募集活動の企画立案 中学校訪問、体験入学、中学校説明会、受験講習会	4	各項目について一定の進捗進捗は見られた。次年度に向けては既定の行事と位置づけず、やる・やらないも含めて一度リセットして見直し、修正を加えていきたい。
		募集に関する基礎資料の整理と分析	3	学校広報ガイドや生徒募集マスター講座の内容などをもとに、受験者数・専攻(推薦受験者)者数等の数値データと共に、募集活動そのものの基礎資料を整理し、わかりやすく全体に配布したい。
		募集ツール(DVD、パンフレット等)の最適化	4	活動のコンセプトに沿った一貫性のあるツール作成はできた。他の項目同様、白紙の状態から見直し一層のコストパフォーマンスの向上を図りたい。

平成25年度学校評価アンケート・全学年の生徒対象（集計結果）

評価項目	4 よくあてはまる そう思う	3 まああてはまる まあそう思う	2 あまりあてはまらない あまりそう思わない	1 あてはまらない そう思わない	0 当てはまらない わからない	
学習	A コースの特色に応じた授業や行事が行われ、積極的に勉強できる環境が整えられていると思いますか。	36.3%	50.5%	9.5%	1.1%	2.6%
	B 先生は個別の学習指導（個別・質問への対応・二者面談など）をしてくれていると思いますか。	42.1%	43.1%	10.4%	1.7%	2.6%
	C NSP（土曜出校日）の小論文講座・コース行事は、充実、役に立つ内容だと思いますか。	20.3%	41.7%	23.4%	10.0%	4.7%
	D 先生は授業を授業レベルとともに始め、45分間の授業をしっかりと行っていると思いますか。	39.6%	46.7%	10.6%	2.0%	1.1%
生活	E 自分の教室は、いつも清潔で整理整頓が行き届いていると思いますか。	27.5%	48.6%	18.1%	3.6%	2.0%
	F 二高生は、服装・髪型がきちんとしており、あいさつが身についていると思いますか。	16.0%	51.9%	23.2%	6.1%	2.8%
	G 先生は生活指導（服装指導・あいさつ・問題行動への対応など）がきちんとしてくれていますか。	41.5%	45.9%	8.7%	1.4%	2.5%
	H 二高は、いじめに対する方針を明確に示し、いじめの早期発見や実態把握に努めていると思いますか。	27.3%	41.7%	10.6%	4.4%	16.0%
進路指導	I 二高では、学級は、いじめに対する方針を明確に示し、いじめの早期発見や実態把握に努めていると思いますか。	26.7%	40.9%	19.5%	7.2%	5.8%
	J 二高では、生徒の一人一人のことをきちんと把握し、適切な進路指導が行われていると思いますか。	27.3%	46.3%	15.4%	3.7%	7.3%
	K 進路講演会・進路祭り・進路センターなどで、進路に関する情報を十分に行き届くことができましたか。	24.9%	48.4%	14.0%	3.6%	9.0%
その他	L 担任の先生は、クラスの生徒が平等でなく、公平に接してくれませんか。	45.9%	41.5%	6.7%	3.4%	2.5%
	M 担任の先生は、生活や進路、部活動など、様々なことについて相談しやすいですか。	34.3%	43.0%	14.2%	5.0%	3.6%
	N 担任の先生が生徒ごどのような行動を期待しているか、生徒の側からはっきり理解できますか。	29.0%	43.1%	16.8%	4.0%	7.0%
	O 二高は、あなたにとって誇りの持てる学校ですか。	26.1%	44.6%	15.1%	7.0%	7.2%

平成25年度学校評価アンケート・全学年の保護者対象（集計結果）

評価項目	4 よくあてはまる そう思う	3 まああてはまる まあそう思う	2 あまりあてはまらない あまりそう思わない	1 あてはまらない そう思わない	0 当てはまらない わからない	
学習	A コースの特色に応じた授業や行事が行われ、積極的に勉強できる環境が整えられていると思いますか。	31.1%	52.5%	7.6%	0.4%	8.4%
	B 教員は個別の学習指導（個別・質問への対応・二者面談など）を適切に行っていると思いますか。	21.4%	53.8%	9.7%	1.7%	13.4%
	C NSP（土曜出校日）の小論文講座・授業・コース独自の活動は、生徒にとって有益だと思いますか。	32.4%	44.5%	13.4%	2.1%	7.6%
	D お子様は、授業が楽しくわかりやすいと言っていますか。	10.9%	52.1%	23.5%	5.5%	8.0%
生活	E 学校の雰囲気がよく、生徒たちは生き生きしていると思いますか。	30.7%	48.3%	9.7%	3.4%	8.0%
	F 学校は、お子様のことについての相談に適切に対応していると思いますか。	18.9%	49.2%	12.2%	1.3%	18.5%
	G 教員による生活指導（服装指導・髪型・問題行動への対応など）がきちんとして行われていると思いますか。	22.3%	60.5%	5.9%	2.1%	9.2%
	H 学校は、いじめに対する方針を明確に示し、いじめの早期発見や実態把握に努めていると思いますか。	13.9%	38.0%	8.0%	2.1%	38.0%
進路指導	I 運動部および文化部の活動が、積極的に行われていると思いますか。	23.5%	48.7%	12.2%	5.9%	9.7%
	J 生徒の能力や適正をきちんと把握し、計画的・綿密的な進路指導が行われていると思いますか。	16.9%	51.9%	11.4%	1.7%	18.6%
	K 進路講演会・学年保護者懇話会・進路祭りによる進路情報の提供が、十分に行われていると思いますか。	17.6%	51.3%	11.3%	2.5%	17.2%
その他	L 学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っていると思いますか。	16.8%	53.8%	15.5%	3.8%	10.1%
	M 本校の目標・進学実績・教育内容は、市内の他の私立高校とはっきりとした違いがあると思いますか。	29.8%	45.8%	4.6%	0.4%	19.3%
	N 学校は、自分の従来の生き方をよく考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしていると思いますか。	20.2%	55.0%	8.4%	2.1%	14.3%
	O 本校の教育内容（授業・進路指導・生活指導）は、総合的に満足できるものですか。	21.0%	60.5%	9.2%	1.3%	8.0%